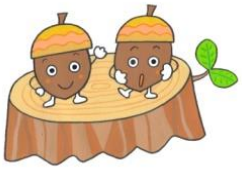

# 子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0082 東京都大田区池上１－３－４　tel:03-5755-3213　fax:03-5755-3081
http://www.kodomono-mori.net　　mailto:info@kodomono-mori.net

ＪＰ子どもの森づくり運動
参加園月例会報
（2020年７月号）

ＪＰ子どもの森づくり運動とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

＜今月の１枚＞

「令和2年7月豪雨災害」で被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

災害のたびに、何故か「想定外」という言葉が繰り返されます。

ただ、子どもたちの命を預かる保育施設において、「想定外」は通用しません。

今月号では、もう一歩踏み込んだ防災対策のご提案です。

写真は、岐阜県「こどもの城こども園」さんで育てられている苗木たちです。

やがて、近くの森に植えられます。

（目次）

１．【With コロナ】ＪＰ子どもの森づくり運動からの提案【その３】
２．「園庭緑化運動」活動レポート
３．「園庭緑化運動」リレーエッセイ（2020年７月号）
４．事務局からのお知らせ

■「ＪＰ子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「ＪＰ子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「ＪＰ子どもの森づくり運動」運営体制

・運　　営　：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
・特別協賛　：日本郵政グループ
・主な後援/協力/連携団体

（公社)全国私立保育園連盟　　ＮＰＯ法人　Ｃ・Ｃ・Ｃ富良野自然塾
（公社）大谷保育協会　　（公社）こども環境学会
保育環境研究所ギビングツリー　　国際校庭園庭連合日本支部
（公社）国土緑化推進機構　　（一社）日本森林インストラクター協会

## １．【With コロナ】ＪＰ子どもの森づくり運動からの提案【その３】

ＪＰ子どもの森づくり運動では、一日も早い新型コロナ感染症が収束し保育の日常が戻ることを願うと共に、厳しい感染症対応の日々を、ただ耐えるだけではなく、“こんな時だからこそ”をキーワードに保育のスキルアップや改善の準備期間として前向きに活用していただくために、主に三つの活動を提案させていただいています。「自然・環境体験活動」「園庭緑化」に続いて、今月号では三つ目のスキルアップ活動として『**保育防災**』のご提案です。

**＜今月の提案＞**

**“こんな時だからこそ”、本当に子どもの命を守るための防災体制の構築を目指す**

今年の「7月豪雨災害」では、熊本県の保育園を中心に大きな被害が発生しました。今や災害列島化した我が国においては、保育・幼児教育における防災対策は待ったなしです。ＪＰ子どもの森づくり運動では、これまでも、保育園、幼稚園、こども園における防災活動に取り組んでまいりましたが、昨今の状況を踏まえ、もう一歩踏み込んだ防災対策を提案させていただきます。

**○保育防災**

しかしながら、そもそも多くの幼児(少)期の子どもたちを預かっている保育・幼児教育施設（以下、保育施設）では、通常の防災対策は通用しません。また、それぞれの保育施設のおかれている立地環境によって多様な自然災害が想定され、一律な防災活動では対応できません。本当に、子どもたちの命を守るためには、それぞれの保育施設オリジナルの「保育防災」の方法と仕組が必要なのです。

東京都「春明保育園」防災訓練

ＪＰ子どもの森づくり運動 防災研修会風景

**○保育防災リーダーの養成**

そのための実効性のある対策としては、それぞれの保育施設に、いわゆる「防災リーダー」を配置し、リーダーが中心になって園全体で施設独自の防災の仕組みづくりと防災意識を高めることに取り組むことでしか実現できません。そんな実情を踏まえ、ＪＰ子どもの森づくり運動では、2020年度より、本当に子どもの命を守ることを目的に、消防庁アドバイザー鎌田修広氏をリーダーとする運営委員会を組織し、保育施設に特化した防災のスキルと高い防災マインドを持つ保育防災リーダーの養成を目指す**「保育防災アクションマイスター認定講座」**（以下、「保育防災講座」）の仕組みづくりに取り組んでいます。

**○「保育防災シミュレーション講座」参加園募集**

「保育防災講座」運営委員会では、本講座が保育の現場で本当に役立つものとなるために、講座内容を現場の保育者と共に検証し、仕上げさせていただければと思っております。つきましては、別紙の概要で、「保育防災シミュレーション講座」にご協力いただける園を募集します。同講座では、本プロジェクトのリーダーである消防庁アドバイザーの鎌田修広氏による「保育防災講座」を実施し、終了後意見交換会を開催し、いただいたご意見を講座内容に反映させていただきます。詳細は別紙をご参照下さい。

プロジェクトリーダー 鎌田修広氏

## ２．「園庭緑化運動」活動レポート

園庭を、単なる運動の場ではなく、多様な自然・環境体験フィールドとして緑化（改善）することを目指すＪＰ子どもの森づくり運動「園庭緑化運動」モデル事業の二回目のレポートは、鹿児島県の幼保連携型認定こども園「こども園 ほしのこ」さんからのレポートです。南九州市の自然豊かな環境に立地する同園では、保育改善活動の一環としてすでに園庭整備を計画されておられましたが、今年の「全国集会」を契機に「園庭緑化運動」にご参加いただきました。以下、上之 悟史園長先生からのレポートです。

園全景

さて、第一回目の研修ではこれまで仙田先生が手掛けてこられたプロジェクトについてお話を伺った。つまり、幼稚園・保育園・小学校などの園（校）庭の整備や、園舎・校舎の整備についての内容である。仙田先生のお話で、私が最も興味深く感じたのは、園庭環境を変化させることで、保育のカリキュラムや保育の内容にも、大きな影響を与えると語られた点についてである。私たちの園では、５名のグループが中心となり園庭整備の計画について話し合っている最中であるが、園庭から私たちが影響を受けるという点については、盲点であったためである。要するに、私たちは園庭の整備を「ゴール」としてとらえていたのだが、園庭の整備は新たな保育の「スタート」となるということだ。環境整備プラス、保育者がそれをどのように活かしていくか、この点もグループメンバーで考えていきたい。

左より、仙田先生、上之園長、実行委員の先生

「園庭緑化運動」参加園シート

現在、当園では園庭整備に関しての二つの工事を計画している。一つは既存園庭の改修であり、もう一つは新たに土地を買収し新規園庭を整備するものである。既存園庭は、園庭の中心にグラウンドが設けられ、その周辺に遊具が配置されている所謂“学校の校庭”を模した造りとなっている。また、新規園庭の為に準備した土地は、園舎のすぐ裏に広がっている田んぼである。この田んぼを造成し園庭として使用する計画である。

鶴見大学短期大学部 仙田 考先生による研修風景

また、研修会が終了してからの質疑応答の中で、仙田先生から当園の園庭整備のポイントとして二点をお示しいただいた。一点目は既存園庭と新規園庭のアクセスについて、二点目は新規園庭の舗装（土壌）についてであった。一点目に関しては先ほど述べたことと関連する事であるが、保育内容やカリキュラムを考えたうえで、既存園庭と新規園庭との関連性を考慮する必要があること、二点目に関しては樹木の生育環境としての土壌と、子どもの遊ぶ園庭であるため水はけの問題について考える必要があるということであった。また、新規園庭は田んぼを造成するので、粘土質の土壌が樹木に悪い影響を及ぼさないよう、造園業者からのアドバイスを受けながら進めていく方が賢明であろうとの助言もいただいた。南国の気候風土に合った樹木の選定も課題となる。しっかりと計画を立て、より良い園庭整備になるよう努めていきたい。

## ３．「園庭緑化運動」リレーエッセイ（2020年７月号）

「園庭緑化運動」の普及を目的に、園庭緑化（改善）についてすぐれた研究や活動に取り組んでいらっしゃる四人の方々のリレーエッセイを掲載します。4月～6月をご担当いただいた「国際校庭園庭連合日本支部」代表の仙田考先生に続いて、７月～９月は、「生きものが集い、人の心が豊かになる園庭づくり」に取り組んでいらしゃる　小泉造園　代表　小泉昭男さんにお願いしました。

**園庭は子どもが育てる～園庭は季節を感じる窓～**

小泉造園　代表　京都女子大学　非常勤講師　小泉昭男（写真提供：小泉氏）

皆さん　こんにちは、今年はじめの「子森通信」に、「命と遊ぶ園庭から観えてる保育」を書かせて頂いた小泉です。
基本仕事は造園業ですが、大学で非常勤講師もさせていただいています。園庭の考え方や、保育の作り方、また園庭づくりのお手伝いもさせていただています。「保育の友」に昨年度まで３年間36回「身近な自然を楽しもう」を連載させていただき今年度からは、（公社）全国私立保育園連盟の「保育通信」にも「生きもの植物との付き合い方」について書かせていただいています。
（2018年版は、全国私立保育園連盟「あおむし通信」にて発信中）今回は、園庭をつくるときに私が考えるポイントを、書かせていただこうかと思います。よろしくお願いいたします。

「園庭は季節を感じる窓」という言葉があります。これは植物学者の伊佐義朗先生が、まだ私が保育士をしていたころに研修などで話されていた言葉です。

私は造園業をする中で、園庭の植物はいったい何なのか。「緑化」なのか「憩」なのかそれとも、、、。子どもにとって植物は遊びの要素であると考えるのが一番だと考えるようになりました。しかし以前、「子森通信」１月号でも書きましたように、子どもは遊びに使いたいのですが、保育士がその遊びを妨げていることが多くあります。園庭に出れば遊具で遊ぶ、ブランコ、滑り台、等があります。
一見そこで子どもが遊んでいると、いかにも遊びをしているように見えます。

しかし本当の遊びとはなんでしょうか。
ロジオ・カイヨウの遊びの定義には下記の文章があります。

・遊びは自己選択的で自主的
・結果よりも過程が大事
・遊びの形や規則は物理的制約を受けるものではなく、参加者のアイディアで生まれる
・創造的で文字どおりにするのではなく、「本当の」ないし「真面目な」生活とはいくらか意識的に解放されるところで行われる
・能動的で注意を怠らずストレスのない状態で行われる

と位置付けています。園庭での遊具遊びと照らし合わせると少し違いがあるようにも感じます。

「IPA 遊ぶ権利条約」にも同じことが書かれています、私は園庭をつくるに時にカイヨウや子どもの遊ぶ権利条約に照らし合わせて下記のことに重点を置いて園庭づくり（環境構成）をしています。

１　植栽は子ども達のふれあうところに
２　子どもが園庭のどこを住処（遊び場）としているか
３　五感を感じる　とぎすます　空間
４　園庭緑化ではなく　遊びの要素
５　収穫（野菜・果樹）
６　生きもの（いのち）との出会いの場

そして一番大事なのは、グラウンドではない園の庭（園）として考えるということです。
一年に一回または二回の運動会のために大きくグラウンドとして使うことは、子どもから自然を奪うことになります。
そこで、私は、本エッセイの8月号、9月号の２回に分けて上記のポイントをお伝えできればよいかと思います。

## ４．事務局からのお知らせ

「♪どんぐりえがおでつながろうプロジェクト」の参加園を募集中です。詳細は、別紙チラシをご覧下さい。